

【小学校第5学年の実践】

1 主題名

広い心で 【B (相互理解・寛容)】

2 教材

広い心で 高田屋 嘉兵衛 (北海道版道徳教材 (小学校高学年用))

3 主題設定の理由【指導観】

(1) ねらいとする道徳的価値について【価値観】

相互理解とは、異なった意見や立場をもつ者同士が互いを尊重し、広がりや深まりのある人間関係を築くことに関する内容項目である。人の考えや意見は多様であり、それが豊かな社会をつくる原動力にもなる。そのためには、多様さを互いに認め合い理解しながら高め合う関係を築くことが不可欠である。しかし、私たちは、自分の立場を守るため、つい他人の失敗や過ちを一方向的に非難したり、自分と異なる意見や立場を受け入れようとしなかったりするなど、自己本位に陥りやすい弱さをもっている。このことから、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、自分とは異なる意見や立場も広い心で受け止めて相手への理解を深め、自らを高めていくことについて考えさせる指導が大切である。

第5学年の指導に当たっては、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重することで、違いを生かしたよりよいものが生まれるといったよさについて多面的・多角的に考えさせ、相手の過ちなどに対しても、自分にも同様のことがあることとして謙虚な心、広い心で受け止め、適切に対処しようとする態度を育てていきたい。

(2) 児童の実態【児童観】

広い心で自分と異なる意見や立場を尊重し、互いの違いを認め合い理解しながら、自分と同じように相手を尊重する態度を育てるために、道徳科以外では、次のような指導を行っている。

①国語科「話すこと・聞くこと」

広い心で自分と異なる意見や立場を受け止めようとする実践意欲や、互いの違いを認め合い理解しながら、自分と同じように相手を尊重する態度を育てるために、話し合う場面において、互いの立場や意図を明確にして考えを広げたりまとめたりする指導を行っている。

指導を通して、これまで自分と異なる意見や立場を受け入れることが少なかった児童が、相手の考えや立場に共感する姿が見られるようになった。今後は、相手の考えに耳を傾け、相手を尊重して聞く態度を育てたい。

②特別活動「学級活動」

広い心で自分と異なる意見や立場を受け止めようとする実践意欲や、互いの違いを認め合い理解しながら、自分と同じように相手を尊重する態度を育てるために、学級会の話し合いの場面において、生活をよりよくするための話し合いの進め方やよりよい合意形成の回り方について理解し、生活上の諸問題を自分たちの課題として捉えることができるよう指導を行っている。

指導を通して、多様な意見を認め合う児童の姿が多く見られるようになった。今後は、互いのよさを生かし合いながら考え、伝え合う態度を育てたい。

(3) 教材について【教材観】

自分とは異なる意見や立場を受け止めて、自らの考えを深めていくよさについて多面的・多角的に考えさせるために、リコルドと信頼関係を深めていった嘉兵衛の気持ちを自分事として考えたり、友だちとの交流から道徳的価値について向かう時間を確保したりするなどして、価値理解・人間理解・他者理解を深めさせる。

本時においては、児童が多面的・多角的に考えるために発問、学習指導過程と板書構造を次の通り工夫する。

1 発問の工夫

- ◆意 図：①導入の発問では、児童にとって身近な学級会や係活動を想起させ、今の自分について振り返り、現在の自己の道徳的価値を意識させることで、振り返りの場面で道徳的価値の自覚を深めさせたい。(価値理解)
- ②嘉兵衛とリコルドが話し合いを進めていく場面では、2人のその時の気持ちを考えることで、相互理解が図られ、信頼関係が築かれていったことを捉えさせたい。釈明書を出すことに至った意義を考える場面では、日本とロシア双方の立場を考えた結果であることに気づかせたい。(人間理解、他者理解)
- ③中心的な発問では、「なぜ、嘉兵衛は、このような釈明書を提案したのでしょうか。」と問うことにより、二国の要求を振り返り、どのように変化したのか、二人がどんな意図をもって釈明書を作ったのかについて話し合うことで、自分事として考えさせたい。(価値理解)

2 学習指導過程の工夫

- ◆意 図：自分の生活経験を振り返らせ、主題に対する現在の自己の考えを意識させることで、終末時にもう一度違う立場から考えられるようにし、自らの道徳的価値の自覚を実感できるようにしたい。また、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深める観点から、ワークシートへの書く時間を十分に確保するとともに、子ども同士の交流場면을複数回設定することにより、交流での考えを比較し、本時の道徳的価値について、多面的・多角的に考えることができるようにしたい。

3 板書構造の工夫

- ◆意 図：嘉兵衛とリコルドの思いや立場を対比させて板書し、相互理解の深まりの様子について視覚的にとらえやすいようにしたい。

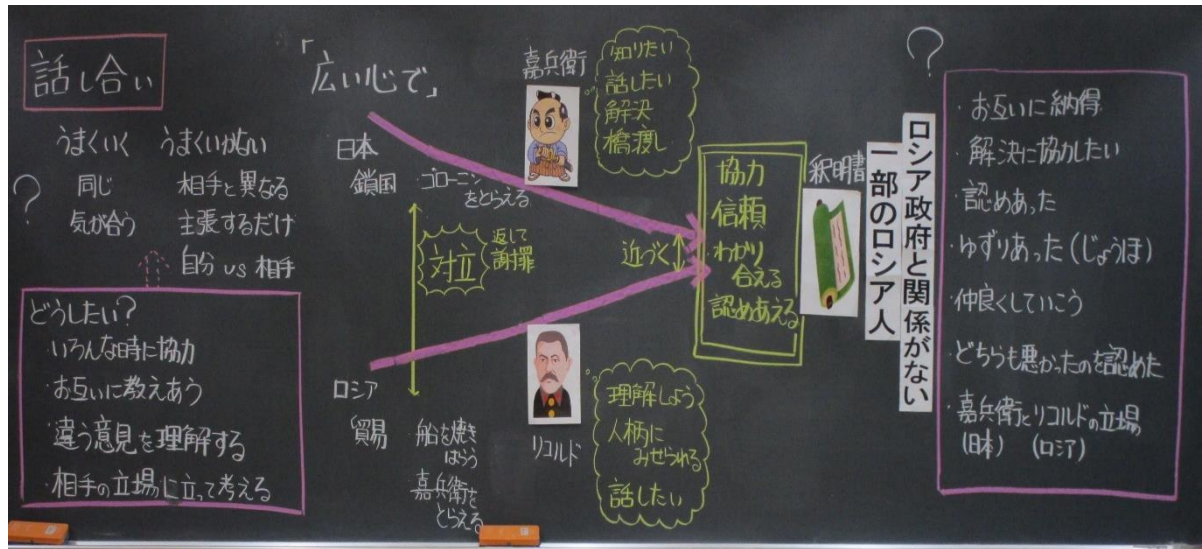
4 ねらい

高田屋嘉兵衛の生き方に触れることを通して、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重し、相手の立場に立って考える態度を育てる。

5 学習指導過程

	●学習活動 ○主な発問 ◎中心的な発問 ・子どもの反応	・指導上の留意点 ■評価	「考え、議論する道徳」 に向けた工夫
導 入	● 学級会や係活動での話し合いを想起する。 ○ お楽しみ会での出し物を決めるとき、結論を出しにくかったことはありませんか。なぜ、そのようなことが起こるのでしょうか。 ・自分と相手の考えが違っていた。 ・相手を受け入れることができない。 ・自分のしたいことだけを主張する。	・日常生活から、相互理解・寛容について自分の経験を想起し、ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。	【工夫①】 ・日常の話し合いのよさや課題を振り返り、「立場」「主張」など、留意点をキーワードとして示し、以降の児童の発言内容を分類したり、展開後半で自分の生活を振り返る際に意識したりできるようにする。
展 開	● 教材「広い心で」を読み、話し合う。 ○ 嘉兵衛は、なぜ、ロシア語を習おうとしたのでしょうか。 ・リコルドと話がしたかったから。 ・相手の気持ちや考え方を知るためには、相手の国の言葉を理解した方がよいから。 ○ 話をしている時の嘉兵衛とリコルドは、どのような気持ちだったのでしょうか。 ・嘉兵衛は、ロシア語を自分から学んで、伝えようとするなんて、本気で事件を解決しようとしているんだ。 ・リコルドは、真剣に話を聞き、理解しようとしてくれている。 ◎ なぜ、嘉兵衛は、このような釈明書を提案したのでしょうか。 ・ロシアが悪いことを一部認めさせ、ゴローニンを捕らえたことも悪いと認めさせたいと考えたから。 ・自分と同じようにリコルドも自分の国に認めさせるのは難しいのではないかと考えたから。 ・お互いの国が納得する解決策を提案したいと思ったから。	・時代背景、日本とロシアの外交政策、関係性について、触れながら確認する。 ・嘉兵衛とリコルドの行動について考えることで、信頼関係が築かれていったことを捉えられるようにする。 ・二国の要求を振り返り、どのように変化したのか、二人がどんな意図をもって釈明書を作ったのかについて話し合うことで、自分事として考えさせ、相互理解・寛容についての価値理解を深められるように働きかける。	【工夫②】 ・日本とロシアの要求を明確化し、日本の立場とロシアの立場を比べることで多面的・多角的な思考を促す。 ・二人が解決策を練りあげた背景と意図を話し合うことで、ねらいとする道徳的価値について、考えを深められるようにする。 ・ペアやグループで交流を行い、多様な考えに触れることで、他者理解を深める。
	● 自己を見つめる。 ○ 相手の立場に立って考えることができて、うれしかったことやよかったと思えたことは、どのような時ですか。 ・学級会の話し合い活動の時、自分の考えを主張するだけでなく、相手の意見をよく聞いて考えをまとめられた時。 ・自分にとって都合が悪いことがあっても、すぐに怒らないで理由や考えを聞いてから話し合えた時。 ・困っている友達を見た時に、勇気を出して、声をかけることができた時。	・自分の生活や生き方を振り返り、自己理解につなげる。 ■ 謙虚に広い心で自分と異なる意見や立場を尊重することの大切さについて、自分との関わりで考えを深めることができたか。	【工夫③】 ・導入で触れたキーワードを振り返りながら、考えを深めた道徳的価値について、自己理解を深められるようにする。
終 末	● 今回の授業で感じたことをワークシートにまとめる。	・互いの立場を尊重する態度が育まれるようにする。	【工夫④】 ・自分の弱さにも目を向けさせながら、これからの自分を成長させようとする意欲が高まるようにする。

6 板書



7 ノート・ワークシート



【授業実践を振り返って】

広い心で自分と異なる意見や立場を尊重し、相手の立場に立って考えるよさについて、自分との関わりで多面的・多角的に考えることができるよう、発問、学習指導過程、板書構造を工夫しました。

児童からは、

- ・学級会での話し合いや、勉強の話し合いの時でも、友達の考えも大切だと思うので、協力して話し合いたいです。
- ・話し合いをする時は、協力と理解が必要で、お互いに意見を分かり合うのも大切だと思いました。私も嘉兵衛とリコルドのように相手の立場に立って考え、協力し、話し合いを進めていきたいです。

などの記述が見られ、異なる立場や考え方なども尊重して相互理解を深め、謙虚で広い心をもって接することについて考えを深めることができました。